みのひが生徒会新聞

箕面東
発行：2020年
9月11日
金曜日
令和2年 前期号

コロナウィルスの感染拡大で異常な年となった令和二年。そんな中でも与えられたチャンスを無駄にすまいと奮闘する本校の部活動を取材した。運動部は多くが例年なら六月で最終戦を終えるが今年は八月・九月に延期されている。文化部は恒例の文化祭が無くなり発表の舞台を一つ失った。今、部員たちはどんな思いで日々を過ごしているのだろうか。

みんなめざす場所は同じ

サッカー部

僕達サッカー部は選手十四名とマネージャー二名と顧問の先生一四名で活動している。毎日は十五時十五分～十八時まで、土曜日は十五時～十八時まで、雨の日は学校の廊下で体幹トレーニングやウエイトルームを使って筋力トレーニングを行っている。

練習試合が多い、試合が無い時は朝練習して八時から練習している。日曜日は原則休みで、時々試合のはいる。試合のない日は、学校の校庭で、ボールを使ってパスの練習をしている。

僕達は基本休みが多いため手達や顧問の先生も同じ目標に向かって日々努力をしている。今年、新型コロナウィルスで春の選手権大会が中止になった最後の大会が悔しい思いの選手達だけになり、顧問の先生達も悔しい思いをしている。

もぶつかることもあったが、選手達や顧問の先生も同じ目標に向かって日々努力をしている。今年、新型コロナウィルスで春の選手権大会が中止になった最後の大会が悔しい思いの選手達だけになり、顧問の先生達も悔しい思いをしている。

僕達は、三年生一人、二年生一人、一年生三人、二年生三人の、計三人で活動している。休日は土日のどちらかの週五の週六日で、平日は一時間半、休日は六時間半で活動している。

活動内容は、ストレッチを十分、ジョグ行い、発声などの準備、基礎練習をしている。

演劇の基礎と実力が身につく。

りきれない悔しい想いが残るかもしれないが、その悔しいと思いをいかしてと挑んでこれを受け取ってどのような結果を残すのかが見どころになっている。

サッカー部に求める人は、選手たちは最後の大会にどのことだ。

サッカー部の為に行動できる人が理想的だ。

（会計・斎藤　風人）

究極のソフトテニス

ソフトテニス部

これから皆さんにこの学校、箕面東高等学校のソフトテニス部を紹介していきたいと思う。この部活は現部長の〆さん（三年）が一年生の時に創った部活だ。まだ、始まってから三年しかたっていない。活動日は、月、火、木、金、土曜日で水、日曜日はOFFだ。練習内容は基礎練習→練習試合→実践練習の順番で練習している。部活の雰囲気は部員の数が少ないのでとても仲良く楽しく活動している。顧問の先生は女性ながら男子部員も太刀打ちできないほどの実力者で、どちらも県大会ベスト8という成績をあげた実力だ。基礎から丁寧に教えてもらえるので安心して入部することができる。ソフトテニスをしてみたいという人も一度体験入部に来てほしい。

（会長・菊池　駿）

羽になれ

バドミントン部

箕面東バドミントン部について皆さんにご紹介しよう。コロナの影響で試合は減っている。しかし、全てが中止になったわけではなく、北摂大会や、高校総体はコロナ禍の中でも開催されている。例年北摂地区は月に一回の練習試合のペースで他校との練習試合や大会に参加している。活動内容は平日木曜日以外、そして土曜日は平日午前中に活動している。練習時間は平日は約三時間。部活動は四時間程度だ。部活動は厳しく、お互いが切磋琢磨しながら活動している。しかし、楽しい雰囲気がないわけではなく、ゲームなどを通して楽しみながらすることもある。皆さんに伝えたいことは初心者でも、部活をしたい人は見に来てほしいとの事だ。また、入部員にはルールを守れる人であってほしいとの事だ。

（会長・菊池　駿）

月一ライブの実態、上達し続ける理由とは。

軽音楽部

軽音楽部について興味のある人に読んでほしい。

軽音楽部の主な活動内容は一ヶ月に一回行われる定期ライブに向けた練習である。部内で組んだバンド毎に練習を重ねている。さらに、他校との合同ライブを行い、他校との交流、他校の前で演奏することによるライブ感覚を身に着けることができる。他にも、ユニークな取り組みとして、時々校外の畑仕事に行き、部員同士の交流を図ることができる。実際、これを機に仲良くなった人もいる。

定期ライブのステージはとても緊張する。みんな、練習の成果を発揮したいからだ。観る側にも、張り詰めた空気がヒシヒシと伝わってくる。楽曲は今絶大な人気を誇る『King Gnu』、『ONE OK ROCK』や、高校生に人気の『ヨルシカ』、『あいみょん』などなどをバンドでカバーしている。自分の知っている曲をバンドがカバーしている人、とてもうれしくなるものだ。

本番では観客側が一体となって盛り上がりを見せてくれる。観客側からも見せてくれる。暗い中でライトに照らされて、よりかっこよく見える。聞く機会をいただいた。

部活動を続けてよかったことを聞くと、ほとんどの部員が、「自分自身も他の部員も、上達しているのが目に見えてわかる。」と言っていた。「他の部活よりも面白い自信がある。」という部員もいるのだろう。

次に、後輩たちに向けた言葉として、「自分のやりたいと思ったパートの腕を磨き、音楽を楽しんでほしい。」と言っていたので、音楽を好きな人、かっこよくなりたい人にうってつけの部活動と言えるだろう。

文字には様々な書体がある。例えば、皆さんが一番よく目にする書体や私が作品でよくよく使っている草書体、篆刻でよく使われる篆書体がある。他にも隷書体という書体もある。作品の大きさや書きたい言葉、出来る書体は自分で決めることが出来る。

また、紙以外にもTシャツやガラスに文字を書く作品がある。これは、授業で特別な体験ができるのも書道部の魅力だ。

紙を染めると作品の雰囲気がグッと変わり様々な顔を見せる。

そして、作品を書き終えた後には裏打ちという紙のしわを伸ばしたり、補強する作業に移ったりする。

（副会長・木谷　匠）

自然に触れて、心を育てる。

ワンダーフォーゲル部

山を登り、木々や川、風などの自然を感じることのできるワンダーフォーゲル部、略してワンゲル部。

部員は、三年生一人、二年生一人の計二人。

活動内容は、登る山を決め、日帰りで登山をするというとても簡単なものである。年に約三回ほどの活動の中、兼部がとてもしやすい。朝八時ぐらいに集合し、目的の山を登っていく。

ワンゲル部をやることによって、得られることについて顧問の先生は「この部活ではかなり体力を使うため、体力面でも精神面でも鍛えることができます。」と言っていた。

ワンゲル部は今までに色んな山に登っており、最も高い山は一北岳一だ。二番目の標高を誇る一北岳一だ。何と三千百九十三一mもある。

山を登るため、荷物が重かったり、体力を使ったり、登りと切った時の達成感はとても大きいものである。

ワンゲル部は、男女問わず、自然が好き、体力をつけたいなど、興味があれば大歓迎である。

（書記・三阪　勇登）

演劇部　私たちの演劇はアートだ

汗水たらし、日々練習に勤しんでいる演劇部。

部員は三年生三人、二年生一人、一年生三人。

活動日は月曜日から土曜日の週六日で、平日は一時間半、休日は六時間半で活動している。

活動内容は、ストレッチを十分、ジョグ行い、発声などの準備、基礎練習をしている。

演劇を続けることによって、演技の基礎と実力が身につく。

また、プロが使う照明を使うため、その方面の知識も身につく。

演劇部に入部したらまず、基礎を固める。もし、分からないことがあれば、先生や先輩が丁寧に教えてくれる。

活動中は、先輩と後輩の壁はないが、ケジメはつけている。

演劇部は、舞台、演劇の好きな生徒、裏方をやってみたい生徒を募集しているので、興味がある方は見学を勧める。

（副会長・木谷　匠）

弓を引き、狙うは一つの的

弓道部

今年から、弓道の経験がある先生が顧問になったことで、本格的に活動が始まった弓道部。

部員は一年生三人、一年生が四人。活動日は月水金土の週四日間で平日が三時間、休日は三時間活動している。

部活の方針は「礼節を重んじ、周りが自然と応援したくなる集団となる。」

主な活動内容は、実戦、練習の積み重ねだ。何度も鍛錬の日々だ。練習することによって弓と矢の使い方に慣れ、集中力が身につく。次第に命中率も上がる。

顧問の先生は「弓道は高校の部活でもとても珍しく、入部した人のほとんどが初心者、興味のあるレベル差もなく、興味のある生徒は歓迎します。ただ、弓は凶器にもなりうるため、ふざけることは禁止です。真面目にコツコツと練習をする生徒を募集します。」と語っていた。

高校から、新しいことに挑戦したい生徒は是非弓道部に来てほしい。弓道部部員学一同及び顧問は、入部大歓迎である。

（副会長・木谷　匠）

一心不乱に打ち込め

剣道部

剣道部は、今まで休部であったが生徒達の声により、今年から復活した。部員は、二年生一人、一年生二人の計三人で活動している。

活動日は平日四～五日、休日は土日のどちらかの週五～六日で、平日は放課後、二時間ほど活動している。

練習内容は、最近は気温が非常に高いので防具を着ず、すり足や素振りを中心にして打ち合いをすることもある。

基本をとても大切にした稽古内容で、試合が近づけば実践稽古を増やしていく。

一人部員のうち一名は初心者で合に出られるよう日々、鍛錬を重ねている。

剣道をやることによって、得られることについて、顧問の先生は「礼儀作法が身につく。実戦的な技術などをとても丁寧に指導されて